

東京都教職員互助会教育研究グループ「研究結果」報告
【令和6年度研究テーマ】

「VUCA 時代を生き抜き、より良い社会を実現する資質・能力を育む社会科指導の工夫」

1 学びの多様化学校における指導の工夫

(1) 「桃太郎電鉄教育版 Lite」を用いた授業実践の実現に向けて

- ① 学びの多様化学校での授業実践。特別の教育課程により週 2 時間の社会科。
- ② ゲームを授業で取り入れることにより期待できる効果。ただし、学習指導要領に沿った内容ではないので、興味関心は高めることはできるが、活用には要工夫。

<質問、協議>

- * 教材の活用には、管理職、地教委の指示を事前に仰ぐ。学習のねらいを明確にしておく必要がある。
- * 多様な背景をもつ生徒を対象とするので、子どもの実態を良く把握し上で使う必要がある。

2 外部人材の活用について

(1) 公民的分野「市場の働きと経済」、独占禁止法について考える

- ① 外部人材（公正取引委員会）と事前に打ち合わせを 5 回。シミュレーションゲームを考案

<質問、協議>

- * 外部人材として公正取引委員会の活用は、有効。また、小中のつながりという点で、例えば小学 3 年生で学んだ「スーパーマーケットの働き」を、中学 3 年生になったとき「市場経済」の概念としてどのように理解させるかを考えると良い。

3 地域教材について

(1) 2 年「近世の日本と世界」 地域教材を活用した指導の工夫

- ① 単元の問い「なぜ幕府の政治改革は繰り返されたのか」
第 2 時「青梅街道が発達した理由とその影響を考える」とし、身近な地域の歴史を教材に産業と交通の発達について考えさせる。
- ② 「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料として、単元シートの活用。単元の最初に「単元の問い」を提示し、予想させる。単元の最後に予想との比較、学習したことを今後の学習や生活にどのようにつなげていくかを書かせる。

<質問・協議>

① 身近な地域の歴史学習の意義について

- * 生徒自身が、「場所が違っても、時代が変わっても、身近な地域の歴史で学んだ概念的知識は活用できる」と理解することが大切。繰り返しやっていくことが大切。

* 資料から読み取れたことを概念化していくことが大切。例えば、現代に残っている地名、北前船の昆布が沖縄料理で使われている例、ブリ街道という名前等を通して、産業が発達し、経済が成長したことがわかる等。

(2) 2年「歴史的視点から地域の特色を見出す『ウォークラリー巡検』」

①「ウォークラリー巡検」：地図と歴史的な設問を載せたワークシートを持ちながら班ごとに1時間で地域を回る（今井英文『ウォークラリー巡検』から着想）

②第1次：ガイダンス、地形図の読み取り等（3時間）

第2次：野外調査準備と実施（2時間）

第3次：まとめ（1時間）

③外部人材の協力の元、巡検の見守りを依頼

<質問・協議>

①歴史的視点をみた地域をどのように地理的分野の「地域の在り方」につなげていくか。

* 地形の特色を歴史と結び付ける。例えば「中野坂上と言われたのはいつなのか」等。

「見たらわかる」ということが巡検の意味。

* 野外調査後、地理的な視点で見てきた地形から生徒自身が歴史についてのクイズを作る方法もある。

* 「身近な地域の歴史」でも地図の活用は重要。

②野外調査の意味

* 何のために巡検させるのか、教師自身がねらいをもつ。

* 「生活の中で発見する」とことと、「授業の中で発見させる」とことの区別。

* 「地域の在り方」は、地理的分野の最後に位置しているが、それ以前に「地域の課題は何か」を随時考えさせおくことが大切。最後の单元だけで取り扱うものでもない。

(3) 「地域調査の手法」

①全11時間

第1時：課題設定

第2～8時：野外調査、発表原稿作成

第9～11時：発表、まとめ

②目標：身近な地域の特色をつかみ、課題

を明らかにする。情報を集める1つの手段として、地域調査を考える

<野外調査>

1.5時間：身近な地域の地図を使いながらチェック。

0.5時間：調査準備、1時間：巡検。

1時間：もう一度考えさせる。

<質問・協議>

①野外調査のやり方について

* 総合的な学習の時間としてカウントし、学年全体で協力してもらう方法もある。

* 11時間の確保の捻出方法は、カリキュラムマネジメントとして工夫する。

②「地域の在り方」へのつながり

* 野外調査の意義は、地域を足で感じる、五感で感じる。野外調査をすることで、日常生活で見ている風景が今までと違って見えると、他の地域でも活用できる力になって

くる。

- * 安全計画は非常に大切。外部人材は積極的に活用すると良い。管理職に相談して進めると良い。
- * 平成 20 年度版の地域調査との違いを考える必要がある。学習指導要領の配列の違いに着目する。現学習指導要領では、「地域調査の手法」を理解した上で「日本の諸地域」の学習がある。そして最後に「地域の在り方」が設定されている意味を考えて指導すると良い。
- ③全体を通して
 - * 生徒の手に「学び方の手引き」があることは、生徒の主体的な学びにつながる。
 - * 生徒の感想をどのように分析するか。学ばせたことを分析するまでが「指導と評価の一体化」につながる。
 - * 教師がまず地域を歩くことがとても大切。教師自身が自分でやってみることが授業デザインになり、評価につながるのではないかな。
 - * 「Think Global Act local」「? → !」が大切

(4) 「身近な地域の歴史—自由民権運動と町田—」—なぜ私たちは歴史を学ぶのか—

- ①「身近な地域の歴史」を通して、なぜ私たちは歴史を学ぶのかを考えさせる
- ② 1 年生に対して、オンライン発表。どのように発表を工夫したら良いか、生成 AI ではできない発表を考えさせた。

<質問、協議>

- ①身近な地域の歴史について
 - * 「身近な地域の歴史」を取り上げる意義について。身近な地域で起きた歴史的事象と今の自分との関連が深く考えられるかどうか重要。
 - * 身近な地域の歴史的事象だけをとらえても、その地域の歴史を知っただけにとどまる。その歴史が生まれた背景にある地理的要因を組み合わせることで、身近な地域の歴史をより深く理解し、概念的知識に結びつく。
- ②「地域を学ぶ」を通して、「地域で学ぶ」ことが重要。
 - * 身近な地域の学習で学んだことを、他の単元で活かせるかどうか重要。
 - * そのためには、身近な地域の教材解釈、教材化が大切。教師が教材観をもつ必要性。
 - * 自分たちが住んでいる地域の特色を生徒にしっかりつかませられるような教材の選択。その地域にしかない地域の特色が見出せる時代を選択する。
- ③高等学校地理総合における身近な地域の歴史の扱いについて
 - * 「C (2) 生活圏の調査と地域の展望」で扱う。

4 学習評価、指導方法の工夫について

(1) 2 年 歴史的分野「戦争に向かう世論」の授業実践

- ①本時の目標：満州事変以後、政党政治が変化する一番のきっかけとなったものを考察し、理由とともに表現する。

②単元テストで、Google Form の活用。また振り返りシートの記述内容を評価。

<質問・協議>

①資料について

- * 現代に生きている私たちの価値観で歴史を見てしまう危険性を避けるために、当時の人が何を考えているのかという資料は必要。例：当時の人の日記等。
- * 戦争当時の地域教材を使うのも 1 つの方法。自治体の HP に資料がある場合がある。

②評価について

- * まず B 規準をしっかりと作ることが大切。記述内容の質の高まりを評価していく必要性。
- * B 規準の設定の仕方について。単元の終わりに生徒がどのような姿になってほしいかのゴールイメージをしっかりとっておくことが大切。学習指導要領に基づいて設定する。単元の終わりに概念的知識が獲得できているかどうか吟味する。

(2)「ヨーロッパ州」授業実践について

①毎時間、開始時と終了時に進捗シート記入。

②ICT を活用し、調べ学習、ジグゾー学習

<質問・協議>

①ジグゾー学習について。

- * ジグゾー学習の目的は、知識を身に付けることではない。知識をもち寄って発表するだけでは、ジグゾー学習をやる意味は薄れる。ジグゾー学習は、文脈を再構成させるためのツール。知識の再構成。
- * ジグゾー学習は、「調べ方、学び方」を学ぶやり方。だから複雑なテーマより、単純な方がやりやすい。1 年生の地理的分野からやっていく。例えば、同じことを調べていて、なぜ違う結果が出るのかということを考えさせる等。

②ICT 活用について。毎時間進捗シートを書くことについて

- * どの教科も振り返りを書いていると、生徒自身が慣れる。また最初は、書けない生徒も仲間のもを見ながら書けるようになる。

5 その他

- * 上記のほかに、地理的分野「日本の諸地域」の導入単元として、調べ学習を取り入れた実践、人権教育の視点を取り入れた歴史的分野「アイヌ文化とその継承」や教員研修の方法、パフォーマンス課題の実践、定期試験問題を通して伸ばしたい思考力問題の提案等が発表された。
- * 単元シートを活用し、単元の最初に「単元の問いの予想」、単元の終わりに「単元の問いの答え」（思考・判断・表現力）「予想との比較」「これからの学習や生活に行かせること」（主体的に学習に取り組む態度）と記述させ、評価材とする実践例が多く見られた。
- * 「身近な地域の調査」「地域の在り方」「身近な地域の歴史」等地域教材を活用した実践例が多く発表された。参加者同士で、地域について学ぶ意義について、毎回実践例を基

に協議をし、考えを深めていった。このような学習は、3年間を通して繰り返し学ぶことで、地域への愛着が増し、社会参画力が高まると考えられる。

